

【事業報告書添付資料】

経営計画 2 0 2 4 進捗状況

(令和 6 年度)

0 はじめに

○ 経営理念

「私たちは確かな技術と情熱をもって、いかなるときも県民のみなさんに下水道のある快適な暮らしを提供し、誰からも信頼される公社をめざします。」

「**経営理念**」のもと経営計画2024では定款に定める目的を達成するため、事業運営を行うにあたり次の基本運営方針を掲げています。

【基本運営方針】

- 1 放流水質基準値の遵守による公共用水域の水質保全及び改善
- 2 設備・機器の計画的な点検、修繕による施設の適正管理
- 3 効果的・効率的な運転管理によるコストの縮減
- 4 関係機関との連携による危機管理のさらなる強化
- 5 県民の下水道事業に対する関心の醸成と魅力の発信
- 6 行政機関への支援
- 7 人材育成と技術力の向上

この7つの運営方針に基づき5つの事業を実施するとともに組織運営に取り組めます。

事業名	関連する基本運営方針
1 流域下水道施設維持管理事業	1～4
2 普及啓発事業	5
3 調査研究事業	上記すべて
4 研修事業	6、7
5 排水設備工事責任技術者認定事業	6

組織体制	関連する基本運営方針
1 危機管理体制の充実	4
2 広報体制の充実	5
3 研修体制の充実	7
4 水質分析体制の充実	1、7

○取組内容の評価

各年度の取組内容については、年度末に各所属が目標達成度を評価したうえで、最終的に理事長による進捗度評価を行うこととしています。

【参 考】

目標達成状況の算出方法と判断基準について

(1) 目標達成状況の算出方法

$$\text{目標達成状況} = \frac{\text{当該年度実績値}}{\text{当該年度目標値}}$$

※目標項目が減少を目指すものである場合には、分子・分母を逆とし、目標値を実績値で割って算出します。

(2) 目標達成度の判断基準について

	達成率
A 進んだ	100%以上
B ある程度進んだ	80%以上100%未満
C あまり進まなかった	60%以上80%未満
D 進まなかった	60%未満

※A～Dの評価は取組を所管する所属長が上記の考え方にに基づき、取組内容の中身とその難易度を考慮したうえで総合的に判断する。

(3) 経営計画の進捗度について

	進捗度
A 進んだ	達成度 A が100%
B ある程度進んだ	達成度 A が80%以上100%未満
C あまり進まなかった	達成度 A が60%以上80%未満
D 進まなかった	達成度 A が60%未満

<加減点要素>

+	定性的目標を掲げた事項の進展が著しい
-	定性的目標を掲げた事項の進展が芳しくない

(+の場合は1段階評価を上げ、-の場合は1段階評価を下げる)

※経営計画の進捗度は、理事長が上記の考えに基づき、加減点要素を考慮したうえで総合的に判断する。

実施事業に関する進捗状況評価

1 流域下水道施設維持管理事業

(1) 浄化センター運転管理業務

この浄化センター運転管理業務については、「現状の運転が最適とは限らない」という視点を常に持ちつつ、運転経費削減につながる試みを継続しています。また、能動的な栄養塩類管理運転に資するため、季節別に放流水質管理値を設定し、放流水質がその水準内に収まるよう努めることとしました。

○経営計画に基づく評価

(1) 放流水質管理値 (mg/L)

処理場名	BOD	COD	SS	窒素	リン
北 部	14	18	20	15 (9.1~20)	1.2 (1.3~2.1)
南 部	14	18	20	15 (7.4~20)	1.2 (1.3~2.1)
志登茂川	14	18	20	15	1.2
雲出川左岸	14	18	20	16 (12~20)	1.4 (1.3~2.3)
松 阪	14	18	20	15 (9.8~20)	1.2 (0.8~2.0)
宮 川	14	18	20	15 (9.9~20)	1.2 (0.5~2.0)

※BOD・COD・SSは毎回の分析値がこの値を超えないこと

※窒素とリンは、4月から9月末までは、日平均値がこの値を超えないこと

※窒素とリンは、10月から3月（栄養塩類管理運転対象期間）までは、日平均値がカッコ内の範囲に収まること

※志登茂川の窒素・リンの放流水質管理値は令和8年度に設定予定

(2) 目標達成度

処理場名	BOD	COD	SS	窒素	リン	評 価
北 部	13	12	18	6.8 (12)	0.9 (1.4)	B (27/30)
南 部	10	12	12	5.9 (9.2)	0.7 (1.1)	
志登茂川	8.7	9.8	5	5.2	0.6	
雲出川左岸	14	14	18	10 (14)	0.8 (1.0)	
松 阪	8.0	14	13	7.8 (12)	0.8 (1.1)	
宮 川	9.8	10	6.0	7.0 (10.5)	0.5 (0.4)	

※赤字は放流水質管理値の目標範囲外

(3) 進捗度評価

放流水質管理値は、おおむね達成できたものの冬期の栄養塩類管理運転で3浄化センターにおいて、リンの下限値を下回ったためBと評価しました。

なお、令和6年10月から志登茂川浄化センターにおいても初期運転を終了、栄養塩類管理運転の調査研究を開始しました。

計画進捗度

B

（２）施設の保守管理業務

更新時期を迎えた設備、機器が多く稼働している浄化センターでは、老朽化による設備の故障が頻発する状況となっています。

これらのことから、浄化センターの機能維持を図るため機器の保守点検を適切に行い、故障の兆候を見極め早期に対応していくことで故障件数の削減に努めるとともに、水処理への影響の大きい設備・機器の故障時の代替措置についてもあらかじめ検討します。

○経営計画に基づく評価

（１）設定目標

故障から復旧に至るまでの対応方針の決定に期限を設定し、迅速な対応により良好な処理機能維持を図る。

対応方針の決定期限	１ヶ月以内
-----------	-------

（２）目標達成度（１ヶ月以内に対応方針決定した件数／不具合発生件数）

処理場名	実績	目標達成率	評 価
北 部	77/77	100%	A
南 部	61/61	100%	A
志登茂川	36/36	100%	A
雲出川左岸	50/50	100%	A
松 阪	100/100	100%	A
宮 川	43/43	100%	A
全体	367/367	100%	A

（３）進捗度評価

老朽化による設備・機器の故障が頻発するなか、全浄化センターで目標を達成することができたことから A と評価しました。

なお、故障した機器の代替措置についても、代替のきかない設備・機器の選定を開始、検討を進めています。

計画進捗度



(3) 汚泥処理業務

大量に発生する下水汚泥を安定的かつ排出者責任を全うできる形で処理するために、収集運搬から処分までの過程を一括して管理できる仕組みを採用しています。

また、下水汚泥の再利用については、SDGs の取組みの一環として、有効利用が確実に担保できる手法を採用するとともに再利用率 100% を維持します。

経営計画の目標としては発生量の抑制と脱水機への負荷のバランスを考え、含水率を一定の範囲内で維持することに努めます。

○経営計画に基づく評価

(1) 設定目標

年平均の汚泥含水率を一定の範囲に収めるとともに、汚泥含水率達成を高いレベルで維持することを目標として設定しました。

目標汚泥含水率 年平均	71%~76%
目標汚泥含水率の達成状況	90%以上/年

(2) 目標達成度（汚泥発生時の実績）

処理場名	目標汚泥含水率 年平均（実績）	目標汚泥含水率の 達成状況（実績）	評 価
北 部	75.0%	93.6%	A
南 部	73.7%	100%	A
志登茂川	73.8%	97.0%	A
雲出川左岸	74.5%	98.6%	A
松 阪	73.7%	100%	A
宮 川	74.6%	99.7%	A
全 体	—	98.2%	A

(3) 進捗度評価

機器の運転方法や薬品の注入率の調整などを行った結果、目標汚泥含水率の年平均は全ての浄化センターで目標の範囲内に収まりました。

また、目標汚泥含水率の目標達成状況も 90%以上を達成し、全項目で目標を達成したことから A と評価しました。

計画進捗度



(4) 大雨等への対応

近年、短時間雨量の増加、局地的豪雨、台風の大型化など風水害の影響が大きくなっており、管渠への雨水を含む「不明水」の侵入により、浄化センターにおいても大雨対応運転の回数も増加しています。

これらに対応するには、職員の技術力向上はもとより、県及び関係市町との連携を強化するため、大雨時の運転説明会等、現場の状況を理解できるよう関係機関の職員向けの研修を行うこととしています。

○経営計画に基づく評価

(1) 設定目標

計画した訓練及び運転説明会の実施率を100%とする。

訓練種別	対象	頻度
異常流入水量にかかる伝達訓練	公社全体	年1回以上
異常流入水量にかかる図上訓練	所属ごと	年1回以上
水防待機時の運転説明会	公社全体	年1回以上
関係機関向け水防待機時の運転説明会	所属ごと	年1回以上

(2) 目標達成度

所 属	異常流入水量 にかかる 伝達訓練	異常流入水量に かかる図上訓練	水防待機時の 運転説明会	関係機関向け 水防待機時の 運転説明会	評 価
北 部	1 回	1 回	1 回	1 回	A
南 部	1 回	1 回	1 回	1 回	A
志登茂川	1 回	1 回	1 回	1 回	A
雲出川左岸	1 回	1 回	1 回	1 回	A
松 阪	1 回	1 回	1 回	3 回	A
宮 川	1 回	1 回	1 回	1 回	A

(3) 進捗度評価

職員に対する訓練及び関係機関向けに計画した研修を全て実施することができたことからAと評価しました。

なお、上記の訓練のほか大規模地震の発生を想定した実動訓練、伝達訓練などを実施しています。

計画進捗度

A

（５）周辺環境への配慮

浄化センターは臭気発生源となりうるため、汚泥搬出時には消臭剤を使用するなどの臭気抑制策を講じるとともに定期的にモニタリング調査を実施し、臭気の確認を行い周辺住民から苦情が無いように努めます。

また、浄化センター周辺において、不法投棄などによりゴミが散乱している事例もあるので、定期的な清掃活動を行い環境改善に努めます。

○経営計画に基づく評価

（１）設定目標

浄化センターへの苦情ゼロを目標として実施する。

臭気モニタリング	月１回
清掃活動	月１回

（２）目標達成度（各浄化センター）

処理場名	項目	実績	目標達成状況	評 価
北 部	臭気モニタリング	12／12	100%	A
	清掃活動	11／12	91.6%	B
南 部	臭気モニタリング	12／12	100%	A
	清掃活動	11／12	91.6%	B
志登茂川	臭気モニタリング	15／12	125%	A
	清掃活動	15／12	125%	A
雲出川左岸	臭気モニタリング	12／12	100%	A
	清掃活動	12／12	100%	A
松 阪	臭気モニタリング	12／12	100%	A
	清掃活動	12／12	100%	A
宮 川	臭気モニタリング	12／12	100%	A
	清掃活動	12／12	100%	A

（３）進捗度評価

浄化センターから下水汚泥を搬出する際は、臭気が発生するため、敷地内において定期的に臭気のモニタリング調査（確認）は目標どおり実施しました。

また、浄化センター周辺の清掃活動については、2 浄化センターにおいて目標を下回る結果となりました。

地元住民からの苦情はゼロであったものの、設定した目標 12 項目のうち 10 項目（83%）という結果から B と評価しました。

計画進捗度

B

（６）維持管理費の縮減努力

コスト縮減の取組について浄化センターがバラバラに対応するよりは、効果のあった取組の水平展開のしやすさに鑑み、重点的に取り組む項目を全浄化センターで統一し、流入水量の伸びに伴って増える経費（主に薬品、電力、汚泥処理費）をコスト縮減の対象として取組んでいます。流入水量あたりの使用量、発生量（原単位）が経費に与える影響が大きいことから、この原単位を管理していくことで経費を縮減するような目標設定としました。

○経営計画に基づく評価

（１）設定目標

各浄化センターにおける流入水量に対する薬品、電力使用量及び汚泥発生量について、令和５年度（２０２３年度）の実績を超えないようにすること。

（２）目標達成度（目標値/実績値）

		薬 品	電 力	汚 泥
北 部	達成率	112.0%	98.7%	102.5%
	評 価	A	B	A
南 部	達成率	90.7%	100.2%	101.7%
	評 価	B	A	A
志登茂川	達成率	132.2%	111.3%	106.6%
	評 価	A	A	A
雲出川左岸	達成率	84.4%	101.4%	104.3%
	評 価	B	A	A
松 阪	達成率	87.2%	106.1%	104.7%
	評 価	B	A	A
宮 川	達成率	150.0%	98.6%	100.5%
	評 価	A	B	A

（３）進捗度評価

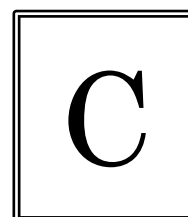
薬品・電力・汚泥の３項目全ての目標を達成できたのは志登茂川浄化センターのみという結果となりました。

薬品においては、近年、増加している豪雨の影響で流入水量が増え、その影響でリン濃度が上昇することがあり、その抑制のため使用量が増加しました。

電力では、設備の増設や機器の故障により、電力使用量が増加しました。

設定した目標 18 項目のうち 13 項目（72%）という結果にとどまったことから C と評価しました。

計画進捗度



2 普及啓発事業

施設見学では、長期的視点から世代を超えた普及啓発を行うには、小学生を対象とすることが最も効果的であるとの認識のもと小学校からの要望が続くよう魅力ある見学メニューづくりに努める。出前教室も施設見学と同様に小学生を対象とすることが効果的と考え実施、これを補完するものとして、中学校・高校等へと対象を広げ実施する。

○経営計画に基づく評価

(1) 設定目標

①施設見学者増への取組み

浄化センターの見学者目標受入数	5,000人以上/年
見学者（小学生）アンケートの満足度	100%

②出前講座の開催

出前講座（小学校・中学校・高校等）	30回以上/年
アンケート満足度	100%

(2) 目標達成度

①浄化センター見学者数

北 部	2,364 人	雲出川左岸	679 人
南 部	1,382 人	松 阪	617 人
志登茂川	462 人	宮 川	1,096 人
合 計			6,600 人
目標達成度	132%	アンケート満足度	100%

計画進捗度



②出前講座の開催（小学校）

出前講座開催回数（人数）	54 回（1,381 人）
小学校 50 回（1,257 人）、中学校 3 回（88 人）、高等学校 1 回（37 人）	
目標達成度	180%
アンケート満足度	100%

(3) 進捗度評価

浄化センター見学者数も出前講座開催回数も設定した目標を達成しました。

また、それぞれで聞き取ったアンケートの結果も満足したとの回答が 100%であったことから A と評価しました。

なお、メディアをはじめとする広報媒体に対して、啓発イベント等への取材要請を積極的に行い、番組に出演するなど、当公社が実施している事業への県民の認知度を高める取り組みを実施しました。

3 調査研究事業

調査研究事業を充実させるため「取組等報告会」を定期的を開催、そこで発表された取組を本格的な調査研究発へと発展させることを目指しています。また、「公社職員の調査・研究にかかる支援制度」を活用し、公社全体で職員の調査研究への取組をバックアップ、調査研究事業の活性化に努めます。

○経営計画に基づく評価

(1) 設定目標

項 目	目 標
取組等報告会の開催	3回／年
成果発表会における研究成果の発表	2件以上／5年

※ 「成果発表会における研究成果の発表」の目標件数は、成果発表会で特に優秀と認められ、社外団体が主催の発表会等へ推薦した件数とする。

(2) 目標達成度

項 目	実 績	達成度
取組等報告会の開催	3回	100%
成果発表会における研究成果の発表	1件	50%

(3) 進捗度評価

令和6年度の取組等報告会は3回開催、各所属から水処理に関するものから省エネルギー運転に関するものなど14件の調査・研究について報告が行われ、その中から優れていると認められた4件について、成果発表会で発表されました。

なお、令和6年度の成果発表会で特に優秀と認められた『雲出川左岸浄化センターにおける省エネ運転等に関する取組』は、令和7年7月に公益社団法人日本下水道協会が開催する「下水道展2025」で発表することとしています。

評価は、「取組等報告会」の目標は達成しておりますが、「成果発表会における研究成果の発表」については、5年間で達成する設定目標に対し50%の達成度であったことから総合的に判断しBと評価しました。

計画進捗度

B

4 研修事業

下水道施設を維持管理するためには、県・市町の下水道担当職員と公社職員との連携・協力が不可欠なことから、県・市町職員に対する研修や意見交換を実施します。

また、県内の中学・高校・大学等の生徒・学生を対象として、彼らに就職の選択肢の一つを提供するため、また下水道事業の普及啓発のため、職場体験研修を実施します。

○経営計画に基づく評価

(1) 設定目標

①現場実務研修会兼職員意見交換会の開催	1回以上／年
②職業体験目標受入数	30人以上／5年
③下水道事業関係職員に向けた研修会の開催	1回以上／年

(2) 目標達成度

①現場実務研修会兼職員意見交換会の開催

北 部	南 部	志登茂川	雲出川左岸	松 阪	宮 川	達成度
1回	1回	1回	1回	3回	1回	100%

※ 津市の研修は志登茂・雲出・松阪で合同開催

②職業体験目標受入数

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	累 計	達成度
13人	—	—	—	—	13人	43%

※ 令和6年度実績内訳：中学生4人、高校生9人

③下水道事業関係職員に向けた研修会の開催

実施数	出席者	内 容	達成度
1回	市町：12名 公社：8名	電気基礎に関する研修	100%

(3) 進捗度評価

計画進捗度

①現場実務研修会は全ての浄化センターで関係市町の職員を対象に実施しました。

②職業体験については、浄化センターから近隣の中学校や高等学校に働きかけ13人に体験してもらいました。

③下水道事業関係職員向け研修は、公社の社内研修に合わせ関係市町からも参加者を募り実施しました。

評価は、①及び③市町に関する研修会は目標を達成しましたが、②職業体験は5年間で達成する目標設定に対し43%の達成度であったことから総合的に判断しBと評価しました。

B